

個別事業(取組)評価				
事業No.	23	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	不登校・いじめ等対策小中連携事業		担当課	人権教育課
			当初予算額(千円)	20,113
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	19,269

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 不登校やいじめ等児童生徒の諸問題は依然として高い確率で発生しており、特に中学1年の段階で急増している。 ◆ 委託4市(高知市、香南市、土佐市、宿毛市)及び6市町村の重点中学校については、不登校の出現率は全国平均より高い状況である。 <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学級が安心できる場所になっていない児童生徒がいる。 ◆ 児童生徒が小学校から中学校に進学したとき、学習内容や生活リズムなど環境の変化が大きいと感じている。 ◆ 少子化や地域のつながりの薄れなどから、社会性が十分に身に付いていない児童生徒がいる。 	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>市町村訪問・学校訪問及び委託4市の担当者とのチーム支援会を通して情報を把握してきた。</p> <p>※H21年度 本県(国公立小中学校)の不登校:12.8人/1,000人全ワースト8位</p>
		<p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>不登校になったきっかけには、極度の不安や緊張、無気力等本人に関わる問題や友人関係、教職員との関係、親子関係、成績不振等のほか、複合的要因の場合も多く、要因を特定するのは困難なケースも見られる。</p>	
②	目標(Outcome)	<p>① 委託4市及び重点中学校の不登校児童生徒数を平成21年度より、35名以上減少させる。</p> <p>② Q-Uアンケートで、学級生活満足群に位置する児童生徒の割合を高める。</p> <p>※ <想定される取組の効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中1ガイダンス」や「人間関係づくり」を日常の活動に活かすことで、落ち着いた学習環境となり、中学1年の段階での諸問題が改善される。 ・不登校等学習支援員による学習支援を行うことで、担任だけでは対応しきれなかった生徒に対し学習支援ができ、中学校での生活に適應できるようになる。 <p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式) ◆ 委託市町村の教育委員会から提出される実績報告書 ◆ 不登校等学習支援員活動報告書 ◆ Q-Uアンケート 	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>緊急プランの目標達成のためには、不登校児童生徒数を県全体で50名減少させる必要があり、その7割を委託4市及び重点中学校が占めているため、平成21年度より35名以上減少させる。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>)</p> <p>① 平成22年度の委託4市及び重点中学校の不登校児童生徒数は、平成21年度より14名の減少で、目標達成はできていない。 ※ 問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式速報値)</p> <p>② Q-Uアンケートで、学級生活満足群に位置する児童生徒の割合は、平成21年度より上昇した。 (公立小学校) 58%(H21) → 61%(H22) (公立中学校) 49%(H21) → 53%(H22)</p> <p>※ 「中1ガイダンス」やQ-Uを活用した「人間関係づくり」等の取組により、中1段階での不登校生徒数は全国値と比較して少なくなってきている。(H21年度の中1での不登校増加率 高知県2.01倍、全国2.83倍)</p> <p>※ 不登校等学習支援員による個別支援(家庭訪問・学習支援)により、欠席数の大幅な減少や学校・学級復帰できた事例があった。</p>
		<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 広域支援会議については、4回開催し、委託市及び学校からの取組発表を行い、学校長による情報交換・協議、アドバイザーからの助言等によって取組の方向性を確認した。 6/11 第1回 中1ガイダンスについて 9/28 第2回 Q-Uの有効活用と人間関係づくり 12/13 第3回 課題解決のための組織の在り方 2/7 第4回 取組の総括と次年度に向けて ◆ 中1ギャップ解消に向けて、同一中学校に進む小学校間の連携(合同合宿、人間関係づくり等)、小中連携(個人カードを活用した中学校区連絡会議・授業交流・教員の人間関係づくり等)が広がった。 ◆ 不登校等学習支援員の配置2年目となり、昨年度小学校6年時に関わりを持ち児童のことを知っている支援員が中学校で迎えることで、課題を持つ子どももスムーズに中学校生活に入ることができた。 	
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広域支援会議の開催(年4回) ・委託4市(高知市、香南市、土佐市、宿毛市)が一堂に会し、課題解決のために小中学校間の連続性のある取組を市全体の取組として強化・拡大する。 ・4市の取組を広げるため、新たに6市町村において取組重点中学校を指定し、人間関係づくりや中1ガイダンスの充実を図るとともに、アドバイザーを招聘する広域支援会議への参加、情報交換を行う。 ◆ 中1ガイダンスの充実(中1仲間づくり合宿等) ◆ 人間関係づくりプログラムの実施 ◆ 個人カードの作成と活用 ◆ Q-Uアンケートの有効活用 ◆ 中学校区連絡会議・市町村連絡会議の実施 ◆ 不登校等学習支援員の配置(高知市に4名、香南市、土佐市、宿毛市に各2名) 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p>
		<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 委託市、重点中学校においては、長欠児童生徒数が減少傾向にあるところもあるが、他市町村の中には、長欠児童生徒数が高い大規模校があり、効果的な取組を他の市町村に(重点中学校区)に広め、課題解決を図る。 ◆ 中1仲間づくり合宿は、目的意識を明確に持ち実施することで、不登校生徒の減少や生徒相互の人間関係及び生徒と教員の人間関係が良くなったことで問題行動の減少にもつながっている。こうした合宿の成果を紹介し、実施校を増やしていく。 	

総合評価と今後の方向	<p>目標達成度 C 「No」を選択した項目 エ</p>	<p>【総合評価】</p> <p>不登校児童生徒数を平成21年度より35名減少させる目標に対して14人のみの減少となり目標は達成できなかった。しかし、委託4市のうち3市、重点中学校10校のうち7校においては、平成22年度長期欠席及び不登校児童生徒数は平成21年度末より改善できた。</p> <p>また、委託市や重点中学校では、不登校への早期の対応や児童生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな支援や人間関係づくりの取組などが進むことで、長欠・不登校の発生状況の改善が図られた。</p>
		<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 委託市、重点中学校においては、長欠児童生徒数が減少傾向にあるところもあるが、他市町村の中には、長欠児童生徒数が高い大規模校があり、効果的な取組を他の市町村に(重点中学校区)に広め、課題解決を図る。 ◆ 中1仲間づくり合宿は、目的意識を明確に持ち実施することで、不登校生徒の減少や生徒相互の人間関係及び生徒と教員の人間関係が良くなったことで問題行動の減少にもつながっている。こうした合宿の成果を紹介し、実施校を増やしていく。